◀消費地に対する大きな宣伝効果が期待されるラッピングトラック

白神トピックス

“動く広告塔” 運送トラックにラッピング

『白神ねぎ』10億円販売達成プロジェクトチーム

ＪＡあきた白神が力を入れる『白神ねぎ』をＰＲするラッピングトラックの完成式が３月24日に能代野菜集出荷所で行われました。ラッピングは「白神ねぎ10億円販売達成プロジェクト」の一環として大消費地に売り込むことを目的とし、青果物の販売を支援する「県野菜ナショナルブランド化総合対策事業」を活用して製作しました。株式会社三協運輸の協力のもと10ｔトラックの両側面に縦1.51ｍ、横9.37ｍのラベルを貼り、白神山地の遠景の写真に「白神ねぎ」、「世界自然遺産の麓で育ちました」の文字と「ＪＡあきた白神」のロゴを入れました。

完成式には佐藤組合長や山谷部会長はじめ約20名が参加し、佐藤組合長が、「生産者の思いを乗せ消費地に向け魅力を発信し、平成27年度は必ず販売額10億円を達成したい」と挨拶しました。また、全農あきたの奈良園芸畜産部長は、「重点品目のねぎをけん引しているのが『白神ねぎ』。このトラックでさらに銘柄拡大につなげてもらいたい」と期待を込めて話しました。

春作業に向け農機展示会を開催

農業機械課

ＪＡあきた白神主催による「農業機械展示会」が３月12日と13日、能代農機センター特設会場で開催され、２日間で180名以上の農家の方が来場しました。

会場には「省力化」が図られた田植え機や播種機のほか、「軽量・簡単操作」に基軸をおいた草刈り機などの農機具が展示され来場者の注目を集めていました。また、農作業安全講習会も行われ、秋田県では平成17年からの10年間で68件の農作業死亡事故が起きており、そのうち60歳以上の高齢者が全体の８割以上を占めている事が説明され、安全点検の重要性や体力に応じた無理のない作業をすることが呼び掛けられました。

▲播種機を品定めする来場者

▲活動の中心となったＪＲＣ委員のみなさん

常盤中学校が福祉用具を寄贈

JAデイサービスセンター『いなほの里』

３月６日に能代市立常盤中学校から、ＪＡデイサービスセンター『いなほの里』へ機能回復訓練等に使われる「ルームランナー」１台が寄贈されました。

同校では毎年、常盤小学校児童も所属するＪＲＣ（青少年赤十字）委員会が中心となり、生徒と地域が一体でアルミ缶や空き瓶等の回収し、その収益金を活用し福祉施設へ備品を寄贈しています。ＪＲＣ委員長の佐藤秀威さんは「職場体験などで『いなほの里』のみなさんにはお世話になりました。寄贈したルームランナーを使ってもらい役立てればうれしいです。」と話してくれました。